

富士河口湖町立 教育センターだより

No.22

平成31年2月25日

文責 渡辺 富美夫



質の高い授業めざして

子どもたちにとって良い授業・質の高い授業を目指して、各学校、各教師が日々様々な取り組みをしています。

その1 組織的研究

山梨大学故中村享史教授が、「日本の教師の素晴らしい所の1つは、学校職員が一丸となって組織的研究をしているところだ。個々の研修を進める中で、学校全体でテーマを決めて、切磋琢磨して質の高い研究している。」と述べています。湖畔の各学校で研究テーマを決め、その達成に向けて取り組んでいます。

さらに、河口湖畔12校では授業を公開し合い、学校間で課題や成果の共有を図り、共に学び合える機会も作っています。今年度は17回公開授業が行われました。これは、この地区の特色とも言えます。

研究内容として、小学校では平成30年（今年度）から、中学校は平成31年度（来年度）から新しく始まる「特別な教科 道徳」に関する研究を実施している学校が多いようです。

また、全国で活躍している授業実践家菊池省三先生を講師にした研究も進められています。教員向け研修会は14回実施され、保護者向けの学習会も開催されました。（No. 9で紹介）このことにかかわる費用は、町で支出していただきました。素晴らしい実践を直接見ることができ、多くのご示唆もいただくことができ、とても好評の学習会でした。

その2 専門機関等との連携と臨地学習

全ての学校で、地域にある施設や場所を利用して、体験的学習を実施しています。五感を通じて学ぶことはとても大切です。本町では、町バスの利用により、こういったダイナミックな授業が可能です。また、富士山科学研究所、富士山世界遺産センター、フィールドセンターなどの専門機関の方や生涯学習課の学芸員杉本さんや各地区在住の専門的な指導ができる方による授業も盛んに行われています。専門的な視点での授業は学習の幅が広がります。センターでは、各校で協力してくださっている方を人材バンクとしてまとめています。ご活用ください。

学習した場所	簡単な内容
河口湖フィールドセンター、船津胎内	溶岩樹形や富士山麓の樹木の観察
コウモリ穴・野鳥の森	コウモリ穴の探検、青木ヶ原樹海の自然散策
河口湖新倉掘抜	富士山麓に生きた人々の暮らしと努力を知る。
富士山科学研究所 富士山世界遺産センター	施設や現地へ赴き、富士山の自然や地学的特長を学ぶ。
西湖コウモリ穴 東海自然歩道	富士山の噴火でできた自然
北浜荘周辺	地層
河口浅間神社	浅間神社について
母の白滝・父の白滝	母・父の白滝について
富士山ミュージアム 旧外川家住宅	富士山の歴史と文化について 富士山信仰について学んだ
富士ヶ嶺 酪農家	キャリア教育、酪農体験

臨地学習の状況（一部）

その3 ICT「(情報通信技術)」の活用

本町では、全ての学級にICT機器（プロジェクター、電子黒板・スクリーン、PC・タブレット、書画カメラ）が整備されています。（平成28年度完備）また、デジタル教科書も、現在は小学校全学年の算数、1・2年の国語、3・4年の理科、5・6年の社会、中学校では、英語が利用できるように町で契約しています。ICTの活用により、教師からは「子どもたちが集中しやすい」「動画などをわかりやすく説明ができる」「興味関心が高まる」等の声が、子どもたちからは「動きのある絵があってわかりやすい」「勉強がわかりやすくなった」「音があってわかりやすい」等の声が挙がっています。良い点を生かしながら、質の高い授業が展開されるよう、さらなるICTの有効活用を進めていきたいものです。